

坂で 長町で 小名浜で 宮城野で 支援奮闘中

震災から1ヶ月 慢性患者のフォローが重点に

協議会被災地支援チーム報告

■第7次支援チーム報告 4/16～4/17

4月16日 避難所・薬局・地域訪問・片付けで奮闘

本日の任務は、召田先生は避難所。柴山さん避難所事務局、木崎さん避難所事務局、甘利さんつばさ薬局、高橋さん長町病院地域訪問、宮村さん・伊藤は長町病院片付けで、長町クリニックのレントゲンフィルムを病院へ移す作業です。全国からの支援者と一緒に汗かいてます。また、本日午前8:30にクリニック棟が通電。

木崎さんは多賀城体育館で足浴。断水しているので暖かいタオルで足を清拭してクリームを塗りました。

健和歯科の召田先生は多賀城体育館で口の中の相談。入れ歯が汚れている方が多く、明日からは入れ歯を洗っていきたくて気が入っていました。震災から1ヶ月経っており、段々慢性患者さんのフォローに重点が移ってくるので、歯科への要望が増えてきているようです。

八柱三和の高橋さんは長町の地域訪問。訪問先では心を閉ざした方がいましたが、長町病院から来たという話しやすくなり、色々話げができました。古くからの住宅街にはお年寄りが多いとの情報を受けたので、今後も引き続き地域訪問をしていきたいと本人。

天利さんは坂総合病院近くのつばさ薬局での業務支援。つばさ薬局は震災から1ヶ月経っており、マニュアルが整備され、スムーズに仕事ができたとのことです。



柴山さんは塩釜公民館の事務局。診察ブースの設営や足浴の補助を行いました。足浴では薬草かバブ（入浴剤）が選択するのですが、バブでの足浴が人気で足湯用のバブが必要と感じました。支援物資に入れてもらえると助かります。足浴に来た避難者の方の多くは爪が伸びており、爪切りなどの足のケアの必要があります。ただ、足白癬の感染対策などが課題です。

4月17日 最年長の木崎さんが一番元気

段々疲労が溜まってくる時期ですが、皆さんまだまだ元気で、なんといっても最年長の木崎さんが一番元気です。

木崎さん：多賀城体育館避難所にて足浴。避難所の方々とたくさん会話し、足浴で多くの避難の方を癒し続けています。引き続き足浴は避難所からの要望が多かったとの事です。足浴用のバブが欠品のようで支援物資として希望しています。

天利さん：多賀城体育館避難所の診察に随行。22名診察し、飲み薬、風邪薬、塗り薬など処方。最近症状が安定しているから弱めの薬が希望との事です。

「東日本大震災」東都協議会
支援対策本部NEWS
第34号

2011年4月18日(月)

連絡先: Tel.03-3879-4530



高橋さん：多賀城体育館にて召田先生の付き添いで歯ブラシで入れ歯の洗浄を実施。かなり汚れが強かったとの事です。

柴山さん：多賀城体育館避難所の事務局。避難所では足浴から調整係まで頑張っています。明日からは支援者の朝の打ち合わせレクチャーも担当で夜遅くまでの任務です。



入れ歯洗浄剤を融通してもらう段取りをつけました

召田先生：多賀城避難所で口腔ケアを実施。高橋さんが入れ歯洗浄中に口腔内のマッサージ。必要に応じて歯科への誘導をするも、避難所生活で移動手段がなかったり、気持ちが向かなかったりで、歯科受診がなかなか出来ないようです。「入れ歯を洗います」とアナウンスをしても恥ずかしいからなかなか手を挙げてくれる避難者が少ない。汚れもあって本来ならもっと需要があるはずなのに。洗面所の数が少なく、洗面所で入れ歯を洗いつらい状況。ポリドントなどの入れ歯洗浄剤とコップがあれば洗いたい人は沢山いるはず。現地対策本部に掛け合っ松島の歯科部隊から入れ歯洗浄剤を融通してもらう段取りをつけました。しかしまだまだ足りない状況で支援物資の一つに入れて欲しい物品です。

宮村君伊藤は本日も長町クリニックの備品を階段で荷下ろしし、倉庫に移す作業。全国の男性支援者総出で取り組みました。粉塵舞うなか汗だくになって頑張っています。片付け隊の宮村君大奮闘です!!青い服を着た背の高いのが宮村君です。

全日本民医連の事務局の方と話し、どのような職種の方が必要ですか?と聞くと、「避難所の口腔ケアのニーズは増えつつある。歯科衛生士の方の支援などはありがたい」との事です。

■小名浜生協病院看護支援報告 4/16~4/17

4月15日 川嶋先生のサイン入り本を2冊送りました

無事に1日目終了しました。看護部長さんに川嶋先生のサイン入り本を2冊送りました。感激してもらえ

ました。ちなみに「あなたの看護は何色ですか」には「ともに試練を乗り越えましょう かわしまみどり」とのサインです。

奥山さんは2階東(療養病棟)、私は一般病棟(10:1)です。お互いに久しぶりの病棟勤務に戸惑うやら、ときめくやら…の心境です。病院は様々だなあと感じた半日でした。夜は、東京民医連の工藤さん(旧知の仲なので安心)が明日の昼までということで川崎協同病院の2人の看護師と一緒に宿舎となっているアパートの近くの焼き肉屋さんで御苦労さま会。お部屋も一緒です。結局支援は23日土曜日の昼までになりました。送迎の立野さん今日はありがとうございました。お昼もごちそうさまでした。他の支援の人たちはバスできたそうで送迎付きの私たちは、「さすが協議会だね」と言われました。

4月16日 また大きな地震が来るのでは..

今日の任務で、奥山さんは40床中、26名の経管栄養、おむつ交換を定時で10時と15時にしました。私は、4人の経管栄養。おむつがセットされた台車をひいての定時のおむつ交換です。もう随分やっていない抑制もせざるを得ず...少し患者さんにもなれ、「やさしい看護婦さん」と言われたり、今日はやっと爪切りを患者さん一人にしました。これで、私の看護師としての気持ちを保てました(これは支援の内容として出す内容ではないと思います)。

看護師さんたちは、今日のわか雨と雷に先日の地震当日の体験を重ね合わせ、また大きな地震が来るのではと、口々に言っていました。いまのところ大丈夫のようです。自宅がやっと電気が通じたという看護師さんもありましたが、皆さん落ちついて仕事されているように見えます。ちゃんとお弁当を持ってこられている方もいるし。原発の風評被害やいわきの支援は、テレビではあまり扱われないということが話題になっていました。明日は休みです。また月曜日からのために明日はリフレッシュしたいと思います。では、またご報告します。伊藤 恵里子



4月17日 小名浜埠頭:復旧作業はまだ手付かず

本日は、小名浜埠頭、塩谷崎に行ってきました。小名浜埠頭は、津波の被害を受け、いまだ復旧作業はされていませんでした。前頁の写真は水族館前の駐車場の杭です。杭が一定方向ではなく左右に曲がって、計り知れない津波の力に言葉をのみます。塩谷崎も津波をかぶり周辺は流されていますが、この石碑(美空ひばりの石碑)は残っていました。台座からずれてはいますが、しっかりと立っていました。塩谷崎までの道は、ほとんど修復されていませんでしたが、希望の「ひばり」と訪れる人も続いています。



夜は3階病棟の看護師さん宅へお邪魔しました。(川崎協同病院から支援に来ている看護師が元小名浜生協病院で勤務していたので、旧知の仲)当日は勤務しており、レスピレーターを両手でおさえ、もうおしまいかもを思った。そのうち、津波で被害に会った人たちが外来にあふれたとのことでした。今は、M8の余震が来るというニュースで、揺れるたびにその時かもと、ドキドキすると語っていました。少し落ち着いたということで、私たちが接待して下さったようで、日常を少しずつ取り戻しつつあるように感じました。本日の報告は以上です。 奥山・伊藤



■宮城野の里福祉避難所支援報告

長期支援中の御代田祐介さんから「元気です」メール

宮城野の里の福祉避難所(まるふく)は、全国の支援者達の頑張りにより、私がはじめてに行った3月の終わりに比べ、入居者の笑顔が増え、入居者同士の繋がりも強くなっているように感じます。

小さなことですが、例えば、髭を剃ろうと鏡を探していたら、頼んだわけでもなく自分の鏡を取りに行って貸してくれたり、入居者それぞれが、他の入居者の布団をかけ直してくれたりということもあります。辛い状況の中で、少しでも多くの笑いを生み出せたらいいなあと思います。

私自身は寝不足ではありますが元気でやっています。入居者、支援者に元気をもらっています。



被災地支援活動に参加して

■第5次支援に参加して

千寿の郷 佐藤 佳実(介護福祉士)

今回の支援に行かせて頂いて、被災地の状況を見て、想像以上だと感じました。

避難所では、高齢の方が多く、先々も見えないなかでの生活、知らない人との集団生活はストレスが多くあると思いました。

そのストレスをどうしたら軽減できるのか、疲れを少しでも軽くできたらと思いました。実際支援中には、そこまでできなかったように感じます。

今後また、支援に行く機会があるなら、活かせなかったことを活かしていきたいと思っています。